

レジメン名

ESHAP

出典 J Clin Oncol 1994;12:1169-1176

実施部署区分

入院
 外来
 処置

対象疾患

非ホジキンリンパ腫\*

進行・再発  
補助療法(術前・術後)  
初発

\*元文献はDLBCL、末梢性T細胞リンパ腫だが、医師と協議し非ホジキンリンパ腫とした

投与減量の基準

ANC	200/mm <sup>3</sup> 以下	Plt	2万/mm <sup>3</sup> 以下
その他	前コースで上記基準を満たすときキロサイドを50%減量、エトポシドを20%減量。シスプラチンはCrが1.5-2.0mg/dLのとき25%減量、Crが2.1-3.0mg/dLのとき50%減量。		

投与中止の基準

WBC	1000/mm <sup>3</sup> 未満 <sup>#</sup>	Plt	5万/mm <sup>3</sup> 未満 <sup>#</sup>
ANC	500/mm <sup>3</sup> 未満 <sup>#</sup>	Cr	3mg/dL以上
#元文献に中止基準ないため、田所医師に暫定的に数値を決めていただいた。			

1クール期間 21-28日

(次のクールまでの標準期間)

総クール数 6クール\*

\*元文献6-8クールだが、田所医師より6クールでよいとのこと。

薬剤名・略号	1日投与量	投与方法	投与速度(時間)	投与日(d1, d8等)
エトポシド	40mg/m <sup>2</sup>	NS500mL <sup>※</sup>	2-3時間 <sup>※</sup>	d1-4
シスプラチン	25mg/m <sup>2</sup>	NS1500mL	24時間	d1-4
シタラビン	2000mg/m <sup>2</sup>	NS500mL	2-3時間	d5
メチルプレドニゾン	500mg/body		15-60分	d1-5
※元文献ではエトポシドの希釈液は250mLで投与時間1hrだが、医師と協議の結果、シスプラチンに対するハイドレーションも兼ねて500mLとし、それに伴い投与速度も2-3hrとした。				

1日投与順 (経時的にプレ Medikation・ポスト Medikation、 溶解液まで含む)
day1-4 ①生食50mL(day1のみ ルート確保用) ②シスプラチン25mg/m <sup>2</sup> +生食1500mL(24hr) (エトポシドとは別ルートで投与) <側管> ①グラニセトロン3mg/バッグ+ソル・メルコート500mg(15-60min) ②エトポシド40mg/m <sup>2</sup> +生食500mL(2-3hr) DEHPフリーの点滴セットを用いて投与 ③生食50mL(フラッシュ用)
day5 ①グラニセトロン3mg/バッグ+ソル・メルコート500mg(15-60min) ②シタラビン2000mg/m <sup>2</sup> +生食500mL(2-3hr) ③生食50mL(フラッシュ用)